

瀬戸市史だより

第1号

瀬戸市史編さんに係る 基本方針

一 市史編さんの目的

今回の市史編さん事業は、令和十一年（二〇二九）に迎える「瀬戸市制施行百周年記念事業」として取り組むものである。瀬戸のやきものの歴史を新たに掘り起こし、明らかにしていくことにより、市民が地域に対する理解、愛着を深め、地域への誇りを一層育んでいくことを目的としている。

瀬戸市の特徴は、「せともの」という言葉が表しているとおり、千年以上連続と行われてきているやきものづくりの歴史である。そのため、瀬戸市史においても、他の市町にはない、やきものの歴史のみを記述した『陶磁史篇』の発刊がされている。この『陶磁史篇』は、「上代から古代まで」「陶窯の変遷」「瀬戸の染付焼」「瀬戸大窯の時代」「瀬戸の本業焼」「近世瀬戸焼の生産と流通」のテーマで発刊され、古代から近世までの瀬戸の陶磁史を明らかにしてきた。しかし、最初に発刊された『陶磁史篇三』は昭和四十二年の発刊であり、発刊から五十六年が経過していることと、その間の研究成果が反映されていないこと、また、瀬戸の窯業史の中で大変重要な位置付けである近代以降については、通史編での概要記述があるのみであることから、それらを補完していくため今回新たな陶磁史篇を発刊し、瀬戸の窯業史の全容を明らかにしていくものである。

二 市史編さんの基本方針

- ① 瀬戸市史は瀬戸市の正史であることから、瀬戸市の歴史の全てを明らかにしていくことが求められている。そのため、新たな研究成果が出てきている近世末の陶磁史、そしてこれまで記述されていない近代以降の陶磁史について編さんする。
- ② 今回の市史は『陶磁史篇』であるため、社会・経済など一般的な歴史のみではなく、陶磁器に関する専門的な知見を加えた、最新の学問的成果を盛り込みながら、学術的に高い水準を目指す。そのため、執筆については、陶磁器や瀬戸市の歴史・技術などの知識を有する専門家を中心に行うものとする。
- ③ 記述については、具体性・客観性を持ったものとする。
- ④ 実際の作品の写真や史資料の図版等を多く掲載するとともに、平易な文章で記載するなど、広く市民に親しみやすかつ理解しやすい内容・体裁とする。
- ⑤ これまでの瀬戸市史編さん過程で収集された史資料も活用しながら、地域に限定せず幅広く調査し、埋もれている未発見の史資料の掘り起こしを積極的に行い、活用する。
- ⑥ 収集した史資料等については、基本的にデータ化を行う。これらのデータは、後に広く市民に公開し、様々な場面で活用出来るようにしていく。
- ⑦ 市史編さん事業への市民の関心を高めていくため、そして地域の歴史や文化の学びから瀬戸への誇りと愛着を育むため、フォーラムの開催、ホームページや広報紙での情報提供・周知などを行う。

三 市史の構成

瀬戸における陶磁史の中で、新たな研究成果が見られる江戸時代後期の染付焼開発の時代から、既刊の陶磁史篇では扱われていない明治時代以降の陶磁史を記述する。

瀬戸市史の構成は次のとおりとする。

陶磁史篇七：磁器生産の始まりと発展

陶磁史篇八：明治時代以降の瀬戸陶磁

四 市史編さんの期間及び刊行計画

① 市史編さんの期間

市史編さん期間は、令和五年度から『陶磁史篇八』発刊 予定の令和十三年度までとする。

② 刊行計画

刊行計画は以下の表のとおりとする。

五 市史編さんの組織と役割

市史編さんに係る組織と役割は、次のとおりとする。

① 市史編さん委員会

学識経験者、行政関係者、市民団体等により組織され、市史編さんに係る基本方針や必要事項の決定を行う。

② 専門部会

市史編さん委員会の下部組織として刊行する巻ごとに専門部会を設け、市史編さんに係る史資料の調査・収集や整理作業を行い、市史の原稿を執筆する。

③ 市史編さん事務局

地域振興部文化課に設置し、市史編さんに係る事務を行う。

	内容	令和5年度	6	7	8	9	10	11	12	13		
組織	市史編さん委員会	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	随時
	執筆専門委員任命	●										
	第七巻部会	●	→	→	→	→	→	→	→			
	第八巻部会	●	→	→	→	→	→	→	→	→		
調査	調査体制の整備	●	→									
	編さん方針の決定	●										
	調査	●	→	→	→	→	→	→	→	→		
刊行	第七巻						原稿×切	●				10月1日
	第八巻								原稿×切	●		
	市史だより	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	3月頃刊行
	業者選定・入札					●						

瀬戸市史編さん委員会 開催結果

《第一回》

日程：令和五年十二月四日（月）

始めに委嘱状が交付された後、川本委員長よりあいさつがあり、市史編さんの目的について説明されました。

その後、事務局より瀬戸市史編さんに係る基本方針の説明をし、委員の皆様から様々な質疑がありました。近世篇の七巻、近現代篇の八巻と作成する予定でしたが、委員より近現代を一冊にまとめるのは難しいのではないかと意見がありました。そのため、部会を開き内容の詳細について協議し、八巻を一冊にまとめるのか否か検討することとなりました。

《第二回》

日程：令和六年六月七日（金）

委員長のあいさつの後、令和五年度に開催された第七巻部会及び第八巻部会の結果報告が各部長から行われました。

八巻の分冊について内容を精査することとなりました。今後上・下巻にするのか八・九巻と分けるのかなどの方法については部会で再度検討したあと委員会でも再協議していきます。

部会通信

瀬戸市史編さん委員会は第七巻部会と第八巻部会の専門部会に分かれて編さんを行っています。それぞれの部会の取り組みをお知らせします。

《第七巻部会》

日時：令和六年三月二十五日（月）・八月二十二日（木）・

十二月十八日（水）

これまでの部会では、全体の構成を検討して章立て案を作成しました。今後の動きとしては、近世については陶磁史篇三の編さん時に収集した膨大な資料があるため、これらを効率的に利用して編さんを行っていきます。また平行して新規資料の調査も行っていく予定です。

《第八巻部会》

日時：令和六年三月二十八日（木）・十月三十一日（木）

令和七年二月二十一日（金）

第八巻部会では、時代も長く、また産業史や美術史的な側面もあり、章立て案を作成したところ一冊では収まらない可能性が高いため、分冊を検討しています。繋がりを分かりやすくするため、下巻で編さんする案が委員より出され、次回の編へん委員会にて分冊案を提出する予定です。

加藤民吉家文書

瀬戸の磁祖、加藤民吉は明和八年（一七七二）に生まれました。民吉は、文化元年（一八〇四）には瀬戸でも試作品が作られるようになっていた磁器を、本場で学ぶため単身で九州に向かいます。約三年の修業で、磁器の製法を身につけた民吉は学んだ技術を瀬戸に伝え、その後瀬戸の磁器生産技術は向上したと言われています。

民吉の生年に関しては従来安永元年（一七七二）とされてきましたが、今回の加藤民吉家に伝わる文書群を調査したところ、新たな史料が発見されました。それには初代及び二代民吉の生年月日が書かれており、その史料では初代民吉の生年は明和八年とされています。また、明治時代に役所に提出した史料中でも明和八年と書かれており、初

代民吉の生年は明和八年が正しいということが分かりました。

民吉家には江戸時代後期から昭和時代までの文書が保管されており、初代民吉以降の民吉家について知ることができます。民吉家文書の多くは瀬戸市史陶磁史篇第三巻に掲載がありますが、今回の調査で未掲載の史料も確認できました。その中から初代民吉に関係のある史料及び江戸時代の史料について翻刻を行い、「瀬戸市近世窯業文書集 第三集」として令和七年二月に発刊しました。

新規掲載の史料としては、陶磁史篇三に一部のみ掲載されていた二代民吉が記した調査留（素地土や釉薬の調査方法が記された覚書。民吉以外にも川本半助や加藤紋右衛門といった有力窯屋の調査も掲載。）や、瀬戸の窯屋に逗留したと言われている南画師横地三丘の書いた瀬戸染付に関する詩文、ほかにも尾張藩校である明倫堂の教授を務めたこともある秦鼎の漢詩などが挙げられます。

これらの史料はまだ未解明の部分もありますが、いずれも民吉の功績や江戸時代の瀬戸の窯屋について知る貴重な史料です。今後は内容の精査を行い、市史の記述に活用していくか検討を行う予定です。

瀬戸市近世窯業文書集 第三集

瀬戸市近世窯業文書集 第三集

現在までの瀬戸市史編さん状況

年	和歴	タイトル	内容
1967	昭和42年	瀬戸市史陶磁史篇第三卷	瀬戸の染付焼について周辺人物も交えて解説
1969	昭和44年	瀬戸市史陶磁史篇第一卷	上代から中世の陶磁史について、東海地方の歴史も明らかにしながら解説
1981	昭和56年	瀬戸市史陶磁史篇第二卷	窯の変遷について、科学的見解も交えて解説。また陶祖藤四郎に関する史料も同時掲載
1985	昭和60年	瀬戸市史資料編 1 絵図	江戸時代の18箇村の絵図と解説資料
1986	昭和61年	瀬戸市史資料編 2 自然	地質・植物・動物に分け解説。付図として地質図を収録
1991	平成3年	瀬戸市近世文書集 2	瀬戸村窯屋文書のうち、加藤円六氏、加藤鉄夫氏、加藤一満氏の所蔵文書を掲載
1991	平成3年	瀬戸市近世文書集 1	下品野村窯屋文書のうち、加藤春夫家所蔵文書を掲載
1992	平成4年	瀬戸市近世文書集 3	赤津村窯屋文書のうち、赤津焼工業協同組合、加藤エイ吾氏、加藤唐三郎氏の所蔵文書を掲載
1993	平成5年	瀬戸市近世文書集 4	御林方関係文書のうち、加藤正男氏所蔵文書を掲載
1993	平成5年	瀬戸市史陶磁史篇第四卷	「瀬戸山離散」ということばで表現される大窯の時代を、発掘調査などによる考古資料を中心に解説
1993	平成5年	瀬戸市史陶磁史篇第五卷	尾張藩政下の瀬戸窯業を本業焼の視点から、古文書や民俗資料等から解説
1994	平成6年	瀬戸市近世文書集 5	江戸時代に編さんされた窯屋伝記のうち、加藤博氏、加藤作助氏、名古屋市鶴舞中央図書館の所蔵文書を掲載
1996	平成8年	近世の瀬戸	江戸時代の瀬戸市について、支配体制、窯屋・農民の状況、祭礼などを解説
1998	平成10年	瀬戸市近世文書集 6	御林方奉行所役人を務めた上水野村松本茂助家所蔵文書を掲載
1998	平成10年	瀬戸市史陶磁史篇第六卷	尾張藩政下における瀬戸窯の復興から磁器生産が隆盛を迎えるまで、各村々の連房式登窯で生産された陶磁器資料の集大成
2000	平成12年	瀬戸市近世文書集 7	御林方奉行所役人を務めた上水野村松本茂助家所蔵文書を6巻に引き続き掲載
2001	平成13年	瀬戸市民俗調査報告書 1	幡山・今村地区における聞き取り調査の結果を掲載
2002	平成14年	瀬戸市民俗調査報告書 2	水野・掛川地区における聞き取り調査の結果を掲載
2003	平成15年	瀬戸市史資料篇第四卷近世	江戸時代の瀬戸に関する資料を数多く収録し、併せて資料ごとに解説も付記
2003	平成15年	瀬戸市民俗調査報告書 3	赤津・瀬戸地区における聞き取り調査の結果を掲載
2004	平成16年	瀬戸市民俗調査報告書 4	品野地区における聞き取り調査の結果を掲載
2005	平成16年	瀬戸市史資料編第三卷原始・古代・中世	原始から江戸時代初頭までの瀬戸に関する資料を収載
2006	平成18年	瀬戸市史民俗編	大正時代から昭和初期の生まれの話者からの聞き取りをもとに、昭和30年代半ば以前の瀬戸の民俗について解説
2006	平成18年	瀬戸市史資料編第五卷近現代1	瀬戸市域の近現代にかかわる史料をテーマ別に収録
2007	平成19年	瀬戸市史通史篇上	瀬戸の原始から江戸時代までの歴史を描く
2007	平成19年	瀬戸市史資料編第六卷近現代2	明治以降の様々な資料を年代を追って収録
2010	平成22年	瀬戸市史通史篇下	廃藩置県から昭和までの歴史をまとめた第1章から第4章と近代の瀬戸窯業の歴史をまとめた第5章から構成

瀬戸市史だより 第1号

発行：令和7年3月31日

編集：瀬戸市史編さん委員会事務局（瀬戸市文化課）

愛知県瀬戸市西茨町 113-3

TEL: 0561-84-1093 Fax: 0561-85-0415

市史編さんに関する情報は
随時 HP にアップします。
右の QR コードからご確認
ください。

